校報

國學院大學
栃木中学高等学校
〒328－8588
栃木市平井町608
☎(0282)㉒5511
校報編集部

人として当たり前のことを

青木一男学校長

新年明けましておめでとうございます。新しい年になって早々、第101回全国高等学校ラグビーフットボール大会において、本校ラグビー部が準優勝に輝くという吉報を皆さんにお届けできたことを嬉しく思います。この結果は、本校ラグビー部はもとより栃木県初の快挙であり、新たな歴史を刻みました。日本一には、惜しくも一歩及びませんでしたが、今大会5試合を通じて、選手一人ひとりが必死になって相手に向かっていく姿、そして、最後まで諦めることなく、粘り強く戦う姿に本校関係者、同窓生だけではなく、栃木市を始めとする一般の方々からも賞賛の声が多数寄せられました。

ラグビー部の原点

私個人としても、ラグビー部が全国大会の決勝戦という舞台に立ったことに感慨深いものがありました。それは今から35年前のこと、時代はまだ昭和でした。本校でも兄弟校で全国大会5回の優勝を誇る國學院久我山高校のラグビー部に続けとばかり、ラグビー部を創設することになったのです。ところが、本校の規約で愛好会からのスタート、その2年目には久我山ラグビー部出身の吉岡肇監督が指導者として来たものの、グラウンドはなく、自転車で15分くらいの距離にある工場のグラウンドを借り、暗くなると自動車のヘッドライトのもとで練習、生徒たちはすべて未経験者という状況でした。そのため、私は特に関心を寄せていたわけではなかったのですが、担任した生徒たちが、いつの間にか3名（後に5名）その愛好会に入っていたのです。吉岡監督は、私のやや不安に思っていた様子を察してか、理解を求めるために私の自宅を何度となく訪れては、指導方針などを熱く語ってくれました。その話の中で、私の心に刺さったものがあったのです。それは、「日本一になる」の言葉でした。まだ、できて2年目の愛好会が、花園出場を飛び越え、いきなり「日本一」が目標というわけです。驚きでしたが、その言葉に、吉岡監督の様々な困難や苦労を乗り越えるという強い覚悟と大きな志が感じられたのです。そうして私は協力を約束しました。

その後、生徒たちが3年生となり、大会途中に愛好会も部に昇格し、花園出場を決める最後の大会に臨みました。当時、栃木県は佐野高校と作新学院高校の2強でしたが、その一つである佐野高校との準決勝では、16対14で歴史的勝利を収めました。そして、決勝戦の相手は作新学院高校。怪我人が続出し、主力の一人は骨折で出場できず、中には痛み止めの注射を打って出場する選手もいるという満身創痍の状態ではありましたが、最後まで果敢に戦いました。結果は、残念ながら0対24の敗戦。しかし、この試合をテレビで観て、國學院栃木のラグビー部に入りたいと入学してきた生徒たちが、3年生となった時に初めての花園出場を決めるのです。

それ以降、ラグビー部は、通算27回、22年連続花園出場を果たし、また日本代表の田村優選手を始め、各年代の日本代表選手、プロチームや大学で活躍する選手を数多く排出するまでになりました。そして、その当時は夢としか思えない「日本一になる」という目標が、34年の時を経て手の届くところに来たのです。國栃ラグビー部の原点と言えるものは、遙か遠くにあると思える夢であっても可能性を信じ、常にその夢に向かって努力をする「ひたむきさ」にあったと思います。

「規律」を守る

また、今大会で私が嬉しく思ったのは、選手たちのひたむきにプレーする姿勢だけではありません。主将が初戦で脳しんとうと診断され、規定で大会中試合に出られないという状況にありながら、それを逆に力に変え、結束力をさらに強めたというところに、精神的な強さと仲間との強い絆、互いの信頼感が感じられたこと、そして決勝戦後の彼らの姿でした。敗れても感情をこらえ、閉会式もしっかりとした態度で臨み、終了後、相手応援団への挨拶や相手チームへのエールもきちんと行っていました。そこに人としての成長ぶりが見て取れたのです。

ところで、大会前にＴＶの取材を受けたのですが、放映された主な内容は、練習風景よりも部屋や洗面所が常にきれいになっている、下駄箱の靴や道具もきちんと整頓されているということでした。それは、「規律」を重んじ、「すべてのことがプレーにつながっている」といった今年度、ラグビー部が強く意識してきたことの一つの例でした。「日頃の決まりを守れない人間が、複雑な状況の中でルールを守れるわけがない」ということから、「挨拶をしっかりする」「常に集中して授業を受ける」という当たり前のことを当たり前にすることを徹底したのです。確かに、選手たちの普段の行動にも変化を感じてはいました。今回の快進撃を支えていたものは、もちろん、データによる緻密な作戦や効果的な練習メニューの作成などがあると思いますが、ラグビーにおいてだけではなく、学校生活全般に渡って「規律」を守ることにあったのです。そのことが彼らの普段の生活態度を変え、試合中の意思統一や献身的な働きへとつながっていったのでしょう。これを國栃ラグビー部の強みとして、そして、財産として引き継いでいってほしいと思います。

変わらぬもの

新しい年は、いわば「変化」の年です。高校も新しい学習指導要領に基づいた教育になり、いよいよ「新しい学び」が始まります。しかし、どれだけ教育の形が変わろうと、変わらないものがあります。それは「徳性の涵養、人格の陶冶」という建学の精神を土台とした國學院栃木の教育です。「人として当たり前のことを当たり前にできてこそ、学力や部活動での活躍がある」と言い続けてきましたが、今回のラグビー部の躍進で、改めてその大切さを自覚できました。

これからも建学の精神のもと、一人ひとりの生徒の可能性を信じ、その可能性を広げていくため、皆で実践を積み、力を合わせ、また新たな事実を生み出していきたいと思います。

〈２月の行事予定〉

１日	全校朝礼 美化の日(高)
２日	３年単位認定試験(高) 全校朝礼 美化の日(中)
４日	第３回漢字検定
５日	２年ベネッセ大学入試共通テスト早期模試(高)
７日	第２回卒業判定会議(高)
11日	建国記念の日
12日	単願合格者学用品販売(高) 第１回新入生ガイダンス(中)
16日	３年期末試験 一部実施(中)
17日～19日	３年期末試験(中)
18日～22日	２年期末試験(高)
19日	イングリッシュスピーチコンテスト（中１・２年）
20日	第３回英検２次
23日	天皇誕生日
28日	予餞会(高)

第101回 全国高等学校ラグビーフットボール大会
堂々の全国準優勝

詳細は４・５面

３学期スタート

１月11日(火)、各教室において第３学期始業式が中学・高校同時にオンラインで行われた。生徒たちは今学期も、検温、消毒、マスク着用、換気等、感染防止に努めながら登校した。

初めに青木一男学校長から年頭の挨拶として、「皆さんは今、自分の目標に近づく努力をしていますか。若いうちは考え込まずにまず行動することが大切だと考えています。うまくいかなくても、ひたむきに取り組むことで、そこから何かをつかみ取ることができるはずです。コロナの感染拡大も心配ですが、みんなで力を合わせて乗り切っていきましょう」との話があった。次に、全国準優勝のラグビー部を始め、各部活動の冬季休暇中における活動報告があり(詳細は４～６面に掲載)、その後ラグビー部準優勝の祝勝会が中学高校同時配信で行われ、その戦績を称えた。

受験に向かう

冬季休暇中、栃木駅前教育センターでは１Ｆを学習スペースとして開放しており、主に受験生を中心に真剣な学びの場として利用されている。１月１日(土)新年スタートの日も、朝９時から開館し、30名ほどの生徒が集まった。この日は11時から青木一男学校長からの激励のことばがあった。受験生たちはラストスパートの決意を固めていた。

大学共通テスト実施

１月15日(土)、16日(日)独協医科大学において大学入学共通テストが行われた。今年も感染対策がなされた中での実施となった。本校からは現役生２６０名が受験した。この試験結果を踏まえて、国公立、私立大学への出願を決定する。

今後、３年生は２次試験や私立大学の受験に向かっていく。ますますの奮起を期待する。

共通テストに向けてのＨＲ

１年　キャリア講演会
未来をつかむために社会を知る

12月15日(水)、各教室において高校一年生を対象としたキャリア講演会が行われた。これは多様なキャリアを持つ社会人からの講演を聞き、意見を交換することを通して、生徒に自己の将来を考える機会を提供し、キャリア形成に対する意識を高めることを目的としている。

今回はＮＰＯ法人ＪＳＢＮ代表理事真坂淳氏「激動の時代にイキイキ生きるために」というテーマでオンラインによる講演会をしていただき、現在の社会情勢や今後求められる人材はどのようなものか、そのためにどのようなアプローチを行うべきかが話された。その後ＪＳＢＮ所属の社会人の方々とのパネルディスカッションがあり、生徒たちはｉＰａｄを使用しSlidoアプリから講演内容に関する質問や感想を入力・送信し、真坂氏や社会人たちがそれに対して解答していった。また、発言した生徒だけでなく、Slidoに書かれた発言にさらに発言を発信していくという形をとっており、生徒たちの意見が活発に交わされ、改めて進路について考える良い機会となった。

また、事後のアンケートにより、以下のような感想が寄せられた。

オンラインで質疑応答

◇　◇　◇

・自分の将来と向き合うきっかけになった。
・社会に出て貢献すべきことについて学べた。
・人生は選択の連続だという話を聞いて、本当にその通りだと思った。
・沢山の人と関わっていく大切さを学ぶことができました。今後、人との出会いの機会を増やしていこうと感じました。
・「なんでも楽しんで挑戦することが大切。楽しむ天才になろう」、真坂さんが話してくれたこのメッセージが印象に残りました。

数学コンテスト実施
学年を越えて実力を計る

12月21日(火)、22日(水)、図書館大会議室において、希望者を対象に数学コンテストが実施され、２９２名が参加した。このコンテストは、大学入試共通テストに向けて意識を高めるために行われている。

【数学ＩＡ】
1位　島田　聖久(Ｓ３年)
1位　平田　竜都(Ｎ２年)
3位　橘　隼杜(Ｓ３年)
4位　佐藤　瑞己(Ｎ３年)
5位　潮　竜也(Ｎ３年)
5位　石塚　愛裕(Ｓ３年)
5位　寺井　健人(Ｎ３年)
5位　紺野　真央(Ｓ３年)
5位　及川　凌生(Ｓ３年)
5位　野口　師杜(Ｓ３年)
5位　佐々木千尋(Ｓ２年)

【数学ⅡＢ】
1位　島田　聖久(Ｓ３年)
2位　橘　隼杜(Ｓ３年)
3位　柏崎　大輝(Ｓ３年)
4位　佐藤　瑞己(Ｎ３年)
5位　小林　未歩(Ｓ３年)
5位　小松　陽華(Ｓ３年)
7位　鈴木那音人(Ｓ３年)
8位　谷田　智哉(Ｓ３年)
9位　平田　瑞弥(Ｓ３年)

【総　合】
1位　島田　聖久(Ｓ３年)
2位　橘　隼杜(Ｓ３年)
3位　佐藤　瑞己(Ｎ３年)
3位　柏崎　大輝(Ｓ３年)
5位　平田　竜都(Ｎ２年)
6位　小林　未歩(Ｓ３年)
7位　鈴木那音人(Ｓ３年)
8位　石塚　愛裕(Ｓ３年)
8位　小松　陽華(Ｓ３年)
10位　寺井　健人(Ｎ３年)

教務日誌抄〈高校〉

〈１月〉
6日(木)第１回高校入試
7日(金)第２回高校入試
11日(火)始業式
　ラグビー部祝勝会・美化の日
13日(木)１・２年校内実力試験
15日(土)１・２年進研学力テスト
15日(土)・16日(日)
　大学入学共通テスト
19日(水)２年共通テストチャレンジ
22日(土)第３回英検一次
24日(月)第１回卒業判定会議
28日(金)１年小論文模試
29日(土)第３回高校入試

●各コースは、次の記号で表示されます。

中高一貫コース	Ｎ
特別選抜Ｓコース	Ｓ
特別選抜コース	Ｔ
選抜コース	Ａ
グローバルコース	Ｇ
文理コース	Ｂ

令和4年度入試
大学・短期大学合格速報（1）

國學院大學　92名

文学部　17名
日本文学科　（5名）
中国文学科　（1名）
外国語文化学科　（5名）
史学科　（5名）
哲学科　（1名）

神道文化学部　1名
神道文化学科

法学部　11名
法律学科　法律専攻　（10名）
政治専攻　（1名）

経済学部　42名
経済学科　（21名）
経営学科　（21名）

観光まちづくり学部　5名
観光まちづくり学科

人間開発学部　16名
初等教育学科　（6名）
健康体育学科　（7名）
子ども支援学科　（3名）

國學院大學栃木短期大学　10名

日本文化学科　（2名）
人間教育学科　（8名）

一般大学
（総合型・学校推薦型選抜）（一部掲載）

国公立大学

東北大学
工学部　電気情報物理工学科　1名

山形大学　4名
理学部　理学科
工学部
高分子・有機材料工学科
化学・バイオ工学科
情報・エレクトロニクス学科

筑波大学　1名
情報学群　知識情報・図書館学類

宇都宮大学　3名
共同教育学部　人文社会系
芸術・生活・健康系

工学部　基盤工学科　1名
はこだて未来大学
システム情報科学部

防衛大学校　1名
理工学専攻

私立大学

国際医療福祉大学　2名
薬学部　薬学科

自治医科大学　4名
保健医療学部　理学療法学科
看護学部　看護学科

獨協大学　3名
法学部　法律学科
国際関係法学科
総合政策学科

青山学院大学　2名
法学部　法学科
コミュニティ人間科学部
コミュニティ人間科学科　3名

大妻女子大学
文学部　コミュニ人間関係学科　3名
人間関係学部　人間関係学科
社会学専攻
社会・臨床心理学専攻

学習院大学　4名
文学部　ドイツ語圏文化学科
理学部　化学科
数学科　（2名）

北里大学　1名
獣医学部　動物資源科学科

国士舘大学　1名
21世紀アジア学部
21世紀アジア学科

駒澤大学　1名
経営学部　経営学科

芝浦工業大学　3名
工学部　情報通信工学科
電気工学科
システム理工学部　生命科学科

上智大学　2名
外国語学部　英語学科

昭和女子大学　4名
国際教養学部　国際教養学科

人間社会学部　福祉社会学科
国際学部
英語コミュニケーション学科
グローバルビジネス学部
会計ファイナンス学科
環境デザイン学部
環境デザイン学科

昭和薬科大学　1名
薬学部　薬学科

成蹊大学　1名
法学部　法律学科

成城大学　2名
文芸学部　文化史学科
法学部　法律学科

専修大学　2名
経営学部　経営学科

中央大学　5名
経済学部　経済学科　（2名）
公共・環境経済学科
理工学部　人間総合理工学科
ビジネスデータサイエンス学科

東京女子大学　2名
現代教養学部　国際社会学科
心理・コミュニケーション学科

東京女子体育大学　2名
体育学部　体育学科

東京電機大学　2名
工学部　機械工学科
応用化学科

東京農業大学
地域環境科学部　生産環境工学科
造園科学科
応用生物科学部　醸造科学科
食品安全健康学科　3名

東京薬科大学
薬学部

東京理科大学　7名
先進工学部　電子システム工学科
理工学部
電気電子情報工学科
土木工学科
数学科　（2名）
理学部第一部　応用化学科
経営学部
国際デザイン経営学科

東洋大学　1名
経済学部　経済学科

日本大学　5名
法学部　政治経済科
経済学部　経済学科
商学部　商業学科
スポーツ科学部競技スポーツ学科（2名）

日本歯科大学　2名
生命歯学部　生命歯学科

日本女子大学　1名
人間社会学部　心理学科

法政大学　3名
経済学部　経済学科
社会学部　社会学科
情報科学部　コンピュータ科学科

武蔵大学　4名
経済学部　経済学科
経営学科　（3名）

武蔵野大学　5名
人間科学部　社会福祉学科
工学部　建築デザイン学科
数理工学科

薬学部　薬学科
看護学部　看護学科　4名

明治学院大学
社会学部　社会学科
社会福祉学科
法学部　法律学科
消費情報環境法学科　2名

立教大学
文学部　文学科
経営学部　経営学科

早稲田大学　1名
国際教養学部　国際教養学科

中京大学　1名
スポーツ科学部　競技スポーツ科学科

同志社大学　1名
文化情報学部　文化情報学科

立命館大学　2名
経営学部　経営学科
生命科学部　生物工学科

第101回 全国高等学校ラグビーフットボール大会

準優勝 思いを繋ぎ歴史を変える

ラグビー部監督　吉岡　肇教諭

國學院栃木、栃木県の歴史を変える成績を残してくれた。キャプテンの怪我というアクシデントがあったが、ピンチをチャンスに変え、一丸となって戦ってくれた。

キャプテン　白石　和輝（ロック・B３年）

これからも、ラグビー部が常に日本一を狙う集団であり続けるために、叱咤激励をお願いしたい。

ゲームキャプテン　田中　大誠（左センター・B３年）

花園という舞台で最高の相手に最高の仲間とプレーできて幸せだった。この経験を大学でも活かしたい。

1　木村　陽太（左プロップ・B２年）
先輩たちのおかげで決勝の舞台で多くの経験ができてとても良かった。

2　吉田　温広（フッカー・B３年）
一年間努力してきたことが肯定できて良かった。人生最大の幸せな時間だった。

3　齋藤　健太（右プロップ・B３年）
花園で5試合出場し、試合ができたことは貴重な経験になった。

4　岡部　義大（左ロック・B２年）
今までお世話になった先輩と最高の舞台で戦うことができて嬉しい。

5　山口　幸之助（右ロック・A３年）
花園で得た貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたい。

6　山科　亮（左フランカー・B３年）
花園決勝まで勝ち進めることができて嬉しかった。貴重な経験ができた。

7　山田　壮（右フランカー・B２年）
花園で得た経験を糧にさらなるレベルアップを目指して精進する。

8　小野田　輝平（ナンバー８・B３年）
小さいころから夢見ていた舞台に立つことができて、とても嬉しかった。

9　島﨑　聖弥（スクラムハーフ・B２年）
今大会で得ることができた経験と悔しさをばねに来年も花園でプレーする。

10　伊藤　龍之介（スタンドオフ・B２年）
多くの経験ができたが、悔しい気持ちが残った。来年は優勝する。

11　伊藤　大暉（左ウイング・B３年）
憧れの花園の舞台で決勝まで進め、最高の仲間たちとプレーできて嬉しかった。

13　千葉　央貴（右センター・B３年）
最高の仲間と最高の舞台でプレーすることができてとても幸せを感じる。

14　武藤　倖吉（右ウイング・B３年）
最高の仲間と準優勝できて本当に良かった。楽しんで試合ができた。

15　青柳　潤之介（フルバック・B２年）
花園は最高の場所であり、来年に向けて、また努力し戻ってきたい。

16　尾花　大智（プロップ・B３年）
自分たちの得意とするモールやスクラムで相手を圧倒できたので良かった。

17　尾池　政人（フッカー・B２年）
とても良い経験をすることができたので、来年はさらに努力し優勝する。

18　佐藤　蒼（プロップ・B２年）
花園の芝を踏むことができたことを誇りに思う。来年はリベンジする。

19　今村　琉慈（ロック・B２年）
途中から登録メンバーに選ばれ出場し、経験を積むことができた。

20　長谷川　太一（フランカー・B３年）
大会直前に怪我をしてしまったが、試合では自分の仕事を全うすることができた。

21　飯野　和音（スクラムハーフ・B３年）
決勝の舞台を、この仲間たちと闘うことができて最高だった。

22　北村　優（ナンバー８・B２年）
チームが一丸となって花園でプレーすることができて楽しかった。

23　上羽　健（スタンドオフ・B３年）
自分の役割を全うしてチームの勝利に貢献することができた。

24　久保　太志郎（ウイング・B３年）
部員全員が自分の役割を果たすことができた結果だと思う。

25　大友　倖介（センター・B３年）
途中出場だったが、花園決勝の舞台に立てたことを誇りに思う。

全国高等学校ラグビーフットボール大会

令和３年12月27日(月)～令和４年１月８日(土)
東大阪市花園ラグビー場

２回戦　対松山聖陵（愛媛）
10トライを挙げ快勝
本校64（28―３　36―０）３松山聖陵

突破をはかる齋藤健太選手

Bシードで２回戦から登場し、四国大会優勝の松山聖陵高校と対戦した。前半２分、ラックを起点に山田壮選手が先制すると、８分には相手を振り切った千葉央貴選手が伊藤大暉選手へとつないでトライを決めた。その後も主導権を握ると、17分に伊藤龍之介選手、26分には山口幸之助選手が立て続けにトライ。後半もフォワードとバックス一体の攻めで圧倒した。伊藤大暉選手は坂道ダッシュで磨いたスピードで４トライを決める活躍を見せた。

チームの精神的支柱である白石和輝主将は、前半13分に脳震盪の疑いで今大会、無念の出場停止となった。

３回戦　対流通経済柏（千葉）
堅守から追撃許さず
本校27（21―０　６―７）７流経柏

３回戦は、関東大会決勝で戦った流通経済大学付属柏高校と対戦した。前半９分、ラインアウトからバックスに展開し、抜け出した田中大誠選手が伊藤大暉選手につなぎ先制トライを決めた。19分にラックから吉田温広選手が押し込むと、26分にはゴール前で伊藤龍之介選手がダミーパスから自ら飛び込むなど前半に３トライを決めた。後半も要所を締め、堅守から相手の反則を誘い、田中大誠選手がペナルティーゴールを２本決め突き放した。

ドライビングモールで押す

準々決勝　対長崎北陽台（長崎）
栃木県勢初の快挙
本校17（３―０　14―７）７長崎北陽台

４人をかわしトライを決めた伊藤龍之介選手

準々決勝は、御所実業高校に勝利し勢いにのる長崎北陽台高校と対戦した。前半21分、相手陣中央で得た反則にペナルティーゴールを選択し、田中大誠選手が正確に蹴り込み３点を先制した。後半８分には、伊藤龍之介選手が相手陣でのラックからサイド攻撃に出て、素早いステップと巧みなフェイントで４人を振り切り、待望の初トライを決めた。後半15分にトライを奪われ３点差に迫られたが、24分に小野田輝平選手がピンチをチャンスに変えた。相手が自陣深くのラインアウトから得意なモールを組むと見せかけ、パスを展開したところ、小野田選手がインターセプトに成功し、武藤倖吉選手が右中間にトライ、試合を決めた。

準決勝　対桐蔭学園（神奈川）
濃紺の壁続く快進撃
本校21（18―５　３―５）10桐蔭学園

伊藤龍之介選手のキックパスからトライを決める伊藤大暉選手

準決勝は大会３連覇を狙い、高校日本代表候補８人を擁するAシード桐蔭学園高校と対戦した。前半２分、17分に今大会絶好調の田中大誠選手がペナルティゴールを２本決めて６点を先行した。前半18分、伊藤龍之介選手がゴール前５メートルの右中間からフィールド左端にキックパスすると、フリーの伊藤大暉選手が走り込んでトライを奪い、22分には青柳潤之介選手が右サイドからトライを決めた。後半は押し込まれる展開になったが、要所を締めてインゴールを割らせなかった。積極的なタックルでミスや反則を引き出し、接点での強さが光った。これまでの最高成績は第91回大会のベスト８であったが、1988年の創部以来34年目で初の決勝へ駒を進めた。

決勝　対東海大大阪仲星（大阪）
モールで魂のトライ
本校５（５―15　０―21）36東海大仲星

モールからアタックをかける吉田温広選手

決勝は６度目の優勝を狙うAシード、東海大学付属大阪仰星高校と対戦した。前半６分、右サイドで素早くパスをつなげ先制トライを喫すると、12分にも続けてトライとゴールを決められた。22分、ゴール右前５メートル付近のモールから吉田温広選手が押し込み、チーム初トライを挙げ反撃を見せた。後半もフォワードとバックスが一体となり相手陣に攻め込んだが、あと数メートルのところで堅守を崩すことができなかった。ロスタイムに２トライを許し、引き離されたが、一丸となって戦い切った。

たくさんのご声援ありがとうございました。
温かい声は、選手の大きな力になりました。
今後も応援よろしくお願いいたします。

花園へ向かう選手を見送る野球部３年生(12月25日)

スクラムからパスを出す島﨑聖弥選手

全国大会

女子バレーボール部
春高バレー　結果報告

第74回全日本バレーボール高等学校選手権。1月5日（水）、東京体育館。

▽1回戦

本校	0	21―25		
		19―25	2	八女学院

大会最多連続出場記録を36年連続に伸ばして臨んだ今大会。1回戦は、春高初出場の八女学院高校（福岡）との対戦だった。

第1セットは、序盤からミスが続き、相手にリードを許した。だが、センターの鈴木陽菜選手（B3年）やライトの川島麻優佳選手（B3年）を中心とした攻めで得点を重ねるなど、一進一退の攻防を繰り広げた。しかし、あと1点で追いつくポイントでのサービスのミスが出てしまい、点差を縮めることができず、第1セットを取られてしまった。

得点を決めて、喜ぶ選手たち

第2セットは、鈴木選手、川島選手に加え、増田夢加選手（B1年）も調子を上げて得点を重ねていき、第1セット同様、一進一退の試合を展開。10―13の試合中盤、主将の大塚月楠選手（B3年）の気持ちのこもったスパイクをきっかけに、4点連取して粘りを見せる。しかし、試合終盤になって再びミスを連発。一気に畳みかけられて、19―25で1回戦敗退となった。

スパイクを放つ増田選手

大会を終えて、監督の曳地俊一教諭は、「インターハイを落とし、チームもどん底のところから、主将の大塚選手を始め3年生を中心にチームを立て直し、春高の舞台までたどり着くことができたのは評価に値すると思う」と語った。

部活動の活躍
男子ハンドボール部
24年連続43回目の優勝

令和3年度栃木県高等学校ハンドボール新人大会兼第36回関東高等学校ハンドボール選抜大会県予選会。12月17日（金）～12月19日（日）日立栃木体育館ほか。

予選トーナメントでは、鹿沼商工高校に30対10で快勝した。決勝リーグでは、宇都宮工業高校に37対16、石橋高校に29対14、小山西高校に27対19で快勝し、24年連続43回目の優勝を果たした。

今大会に臨むにあたって、道浦悠貴選手（A2年）、主将の猿山大翔選手（B2年）の2名の中心選手を欠くといったチーム状況であったが、代わって出場した畑中陸人選手（B2年）、廣富駿選手（S1年）らがしっかりと役目を果たした。

また、ゴールキーパーの漆原彗聖選手（B2年）を中心とした堅いディフェンスでリズムを作り、速攻で得点する攻めパターンで、ハンドボール部の関東大会での活躍を期待したい。

監督の高山洋太教諭は、「優勝は果たせたものの勝負はこれから。2月の関東選抜大会を何としてでも勝ち抜きたい」と述べた。また、猿山主将は、「優勝はできたものの、改善点が多々あった。応援してくださった方々の気持ちに応えるべく、関東大会でも全力を尽くしたい」と熱い思いを語った。

なお、第36回関東高等学校ハンドボール選抜大会は、2月4日（金）～6日（日）に、東京都武蔵村山市総合体育館他で行われる予定である。

全勝で優勝を飾った　男子ハンドボール部

下野書道展と全国競書大会
多数入賞の活躍（書道部）

第54回「下野書道展」、第58回「全国競書大会」が令和3年11月にそれぞれ開催され、本校から多数の生徒が受賞した。

【下野書道展】

《金賞》
符　文媛（中2年）

《銀賞》
登坂　太晴（中1年）
岩上　琴音（中1年）
佐々木桃寧（中1年）
高橋　悠奈（T1年）
田村　憲也（T1年）

《銅賞》
山本　佳奈（中3年）
尾林　昂太（A2年）
板橋　柚衣（A2年）
大江　祈菜（S1年）
三浦　春奈（S1年）
田村　朱（A1年）
小林　奏太（T1年）
町田　瑠那（S1年）

作品は壬生城址公園ホールにて令和3年12月3日（金）～5日（日）まで展示された。

【全国競書大会】

《毎日新聞社賞》
今井　柚菜（A2年）
三浦　春奈（S1年）

《学年優秀賞》
町田　瑠那（S1年）
原田　茉彩（A1年）
押山　理愛（中2年）

《大会委員長賞》
板橋　柚衣（A2年）
五十嵐也葉（T2年）

《創玄書道会奨励賞》
尾林　昂太（A2年）
田村　朱（A1年）
西山　詩菜（中2年）

全国競書大会受賞者（高校）

また、令和4年1月2日（日）～31日（月）、とちぎわんぱく公園こどもの城において、書道部の作品展が行われた。今年も縦約3m、横約5.6mの大作のほか、8点の作品が展示された。

今年の干支を基に作った大作

中学校部門最高賞　下野会賞受賞

下野新聞社・下野会主催第18回「新聞を読んで」感想文コンクール

下野新聞社・下野新聞下野会では、小中高生が新聞に親しみ、読解力や考える力を養うことなどを目的に「新聞を読んで」感想文コンクールを毎年開催している。18回目となる今年は、県内から計１８３５点の応募があり、中学２年生の部で高森亜門さん（２の２）が見事最優秀賞を受賞し、併せて中学校部門で最も優れた一名に贈られる「下野会賞」も受賞した。次に高森亜門さんの最優秀作品を掲載する。

下野会賞（中学生の部）

ひとすじの希望

高森　亜門（２の２）

化石が見つかったのは「海成層」の地層。これは、私にとってひとすじの希望となった。

小学三年生から、化石の研究をしている。私の住む町から三十分程の所にある葛生町で二億七千万年前ペルム紀の地層が出ている。その岩を食用酢で溶かし、化石を採り出している。酢で溶かし、洗い、乾かすを繰り返すと、化石だけが残る。最近では、種類がわかるものも増えてきた。と、書くだけでは、とても簡単に思えるかもしれないが、どこに入っているのかわからない、出てくる保証もない。そんなものに対し、これを繰り返し続けることは、とても辛く、心が折れ、やめてしまいたい気持ちに何度も何度もなった。そんな私を支えてくれたのは、化石を見つけたいという気持ちと、ある新聞記事をきっかけに思いがけず手にした一通の手紙であった。

二〇一六年、私は化石の研究を始めたばかりだった。ペルム紀にいたサメの歯を見つけたい。そして将来は恐竜の化石を発掘したい。そんな気持ちでワクワクしていた時だった。ある日、恐竜絶滅に関する新聞記事が掲載された。国立科学博物館の恐竜研究者である真鍋真先生の書いたものだった。私はこれを読んだ感想と自分の見つけたいサメの化石と、その生態予想についての持論を手紙に書いた。数日後、先生は丁寧な返事をくれた。驚いたのは、手紙だけでなく私の持論に対しての最新の研究論文を付けてくれたことだった。しかし、それは全て英語で書かれており、読めるはずもないものだった。でもそれは、私のことを子ども扱いしない先生の本気度を感じさせた。あの有名な先生が小学生の自分の考えを受け止め、返事をくれたことがうれしく、研究の励みとなった。こんな私に今回のこの新たな新聞記事が、さらに気持ちのあと押しをしてくれることになった。

何年か前、私の研究を見てくれている博物館での講座で、私の自宅周辺の地下は恐竜のいたジュラ紀の地層であることがわかった。講座の先生は、ここは「海成層」の地層だから恐竜の化石は難しいだろう、と話してくれた。その当時は、陸上の地層でなければ恐竜の化石を見つけることは不可能と思われていた。しかし、今回見つかった「ヤマトサウルス」そして、北海道での「カムイサウスル」ともに、この「海成層」からの発見である。私の希望にひとすじの光が射した気がした。恐竜の化石を見つけられるかもしれない。

今年の夏も食用酢で岩を溶かしている。自宅周辺の地層は、酢で溶かせないチャート層だった。でも、恐竜の化石が見つかる可能性はあると思っている。まずは、ペルム紀のサメの化石を見つけることが目標だ。英語の論文を送ってくれた真鍋先生の期待に応えられるよう納得がいくまで研究を続けていきたい。

教務日誌抄〈中学〉

〈１月〉

11日（火）始業式
　美化の日
21日（金）立志式
　第３回英語検定一次
22日（土）第３回入学試験
29日（土）・31日（月）
　第３回学力推移調査

第24回路傍の石作品コンクールに３名入賞

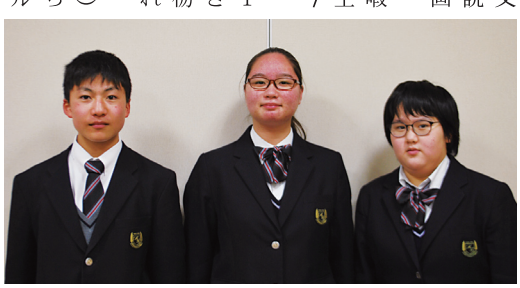
このコンクールは、国語教科書の編集など、青少年に夢と希望を与え続けた栃木市出身の作家山本有三の心にならい、生命を大切にし、深く考える青少年の健全な育成を目指し、毎年実施されている。内容は、山本有三の作品並びに編集作品や、路傍の石文学賞受賞者の作品を読んでの感想文や感想画である。

本校では、夏期休暇中の課題として１年生が取り組み、３名が今回入賞を果たした。

表彰式は令和４年１月８日（土）に、とちぎ岩下の新生姜ホール（栃木文化会館）にて行われた。また、応募作品は、令和４年１月７日（金）～10日（月）まで、とちぎ岩下の新生姜ホールに展示された。

優秀賞
登坂　太晴（１の１）
「人々の色」
（『カラフル』森絵都著）

優良賞
岩上　琴音（１の１）
「コペル君と私」
小口　凜（１の１）
「生きるとは何か」
（『君たちはどう生きるか』吉野源三郎著）


登坂さん、岩上さん、小口さん

総まとめの学期を充実したものに

３学期がスタートした。短い学期ではあるが、１・２年生は立志式やイングリッシュスピーチコンテストといった日々の学習や成長の成果を発表する行事が行われ、３年生は卒業に向かいつつ、高校進学の準備をする大事な学期である。各学年の総まとめの学期を充実させられるよう、それぞれの目標を明確にし、１日１日を大切に過ごしていこう。

始業式

１月11日(火)、各教室にて、オンラインによる始業式が高校と合同で行われた。全国準優勝を果たした高校ラグビー部の報告会・祝勝会も併せて視聴し、中学生も全員で先輩方の健闘を称えた。

白石主将の言葉に聞き入る

ボキャブラリーコンテスト

12月13日(月)、ボキャブラリーコンテストが行われた。この行事は４００語から５００語程度の英単語を範囲とし、これまでの学習の成果を見る良い機会となっている。各学年とも２００点満点。意味を答える際の漢字の書き取りも厳しくチェックされ、単語帳に漢字で書かれているものは漢字で書かなければ減点される。その中でも、満点を取る生徒もいた。

《第１学年》
1位　早川　詩桜(2組)
2位　中島さくら(2組)
3位　市川　奏太(1組)
4位　高橋　健太(2組)
5位　渡邊　悠希(1組)
　　村杉　大輝(2組)
7位　梶田　悠斗(1組)
8位　小倉　碧(2組)
9位　伊藤　真徳(1組)

《第２学年》
1位　高久　紫音(2組)
　　符　文媛(2組)
3位　大沼　栞菜(1組)
4位　加納あづさ(1組)
5位　金子　昌弘(1組)
6位　岡部　世奈(1組)
　　並木綾之介(2組)
8位　平本　結心(1組)
9位　大塚　優羽(1組)
　　大和田桃百(1組)
　　齋藤実菜弥(1組)
　　川上　遼太(2組)

《第３学年》
1位　河内　玲奈(1組)
　　山本　佳奈(1組)
3位　舘野　愛依(1組)
4位　川上　晃矢(2組)
5位　髙橋　優乃(1組)
6位　今野　幹太(2組)
7位　白石明日香(1組)
8位　濱野　健(2組)
9位　渥美　佳蓮(1組)
10位　渡辺　大翔(2組)

道のしをり⑫

一部員である前に一生徒であれ

保健体育科　吉岡航太郎

私が母校に赴任し、顧問に就任した１年目、能力の高い選手が多く揃い、花園ベスト８以上を目標に大会に臨みましたが、２回戦で御所実業高校に５―12で惜しくも敗れました。選手一人ひとりの能力では上回る部分もありながら、要所で不用意な反則を重ねてしまい、最後は相手のチーム一丸となった全員モールでトライを許しました。この敗戦から「能力の高い選手がいてもチームとしてまとまりがなければ花園では勝てない」と考え、チーム全員が規律を守り、一体感のあるチーム作りを目指しました。敗戦の日、部員投票により満票一致で白石和輝が主将に選出され、新たなチーム作りがスタートしたのです。

「規律」をテーマにグラウンド内外で決められたルールを守ることを徹底し、挨拶をしっかりする、授業を真面目に受ける、部屋を清潔に保つなど、日々の行動がグラウンドに直結すると考え、規則正しい生活を心掛けさせました。白石主将は素晴らしいリーダーシップを発揮し、一切の妥協を許さず、チームの成長に大きく貢献してくれました。飯野、田中、吉田の３名のリーダーもチームを引っ張り、着実に部員たちの意識は変わっていきました。今年の３年生にはスター選手がいませんでしたが、とにかく勤勉でひたむきに練習に取り組み、チームが苦しい状況でもタックルを繰り返し、國栃伝統の「執念のタックル」を見事に体現してくれました。そして関東大会では７年ぶりの優勝、花園では創部以来初の決勝進出を果たし、部の歴史を塗り替える快挙を成し遂げてくれました。決勝戦には１３０名を超えるＯＢ、父母、教職員など多くの方々が応援に駆けつけてくださり、「感動した」「いいチームだった」と労いの言葉をいただきました。自分たちの試合を見て楽しんでくれる人や感動してくれる人がいること、これは大変光栄なことであり、戦い抜いた選手たちを誇りに思います。

ＰＣで相手チームの分析をする選手たちと航太郎コーチ

今回の準優勝という結果は、運ではなく日々積み重ねてきた努力の賜物であり、代表候補選手がいなくても勝てるということ、日々の努力は嘘をつかないということを選手たちが証明してくれました。再び決勝の舞台に立ち、次こそは日本一を取れるよう日々精進していきたいと思います。応援ありがとうございました。